



インスピレーションになろう

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：小林 惠一 幹事：菅原 茂秋

地区目標 「ロータリーの原点に戻ろう」 BACK TO BASICS

クラブテーマ 「あなた自身のロータリーを生きる」 ところに奉仕と友情の灯をともしよう

◆点鐘：小林 惠一 会長 ◆ロータリーソング：奉仕の理想
◆司会：高嶋 俊幸 副 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル

Yamagata West Rotary

第2847回例会 令和元年5月27日(月)

会長挨拶

小林 惠一 会長



令和に始まった5月も最後の週になりました。

先週、遊学館で「茶道」同好会が開催され、細谷PGご夫妻の手解きのもとお稽古させて戴きました。このところ茶会に誘われる機会が徐々に増え、作法に心もとない私は家内や娘を伴って出かけることが多かったのですが、密かに

一人でも行ける作法を身に付けたいものだと思っていました。

かつての実業家たちにとって、「茶の湯」は必須でした。それは、大人の作法と遊び心に溢れた社交の場でもあったのです。主客の濃厚な時間があり、座禅にも似た集中力と心身を解放するリラクゼーションがある。仕事で忙しい人、集中しないといけない人ほど、お茶をするといいいと思います。

茶の湯の世界は、総合芸術とも云われ茶室や庭はもとより、楽焼に始まる道具や掛け軸等の美術品、生け花や菓子等、それぞれ随所に職人の巧みな技やおもてなしの心が施されており、それを楽しむ感覚です。

スタートしたばかりの同好会ですが、お稽古で礼儀や作法を確認し、或いは身につけられて、真の茶の湯の豊かさ、奥深さを感じて欲しいと思っています。また、日本の伝統文化に接することで「人生の愉しみ」を深めて頂ければと思います。

週末、気温が一気に上がり今年も「夏ツバキ」が白い可憐な花を咲かせました。時間を見つけては、隠れ家とも云うべき場所に行って一人植物と向き合うことが、いつの頃からか私の習慣になりました。この花の特徴は中央部の黄色い雄しべが鮮やかで、別名をシャラ又はサラと読みますが、朝咲いた花は、夕刻までに落ちてしまう。かなり前、臨濟宗の本山・京都妙心寺、東林院の庭に古木があって満開の花の下、次つぎと散り行く花が辺り一面を白く敷き詰める様に、平家物語の一節「沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす」を重ねながら見入ったことがありました。今年は気候が良いせい、葉の茂りが良く鮮やかに咲いたけれど、鴈外の「白き花はたと落ちたり」のごとく散り際の鮮やかさは、いつもと変わりません。今は植物の繁茂が旺盛で、次つぎに花々が開花します。こうして植物と向き合っていると時の経つのを忘れてしまいます。

話は飛びますが、南方熊楠は「自分は甚だ癩癩持ちだ」といい、狂人になるのではないかと周囲は憂いたと柳田国男宛書簡にあります。それを救ったのは「面白き学問」粘菌などの博物標本を自ら集めることだった。

解剖学者の養老孟司は、虫を集めていると癩癩が起きない。「狂気に陥らないで済む」と同じ事を言っている。

世の中とつきあっていると、気が狂いそうになる。それを救うには、博物学にはしくはない。

そして、自分と同じく、それをよく理解した人がもう一人あった。それは昭和天皇であると。森永キャラメル箱に入れた標本を天皇は熊楠から貰う。そんなことをする人は今も昔もいない。しかし、それでいいのではないかと天皇自身が語った。「雨にけふる神島を見て紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」昭和37年白浜僥倖の際に往時を思い起して詠まれた御製である。

昭和天皇は、熊楠のような変人ではなかったであろう。しかし、きわめて多事多難な人生を送られる運命にあった。最後までそれに黙々とつきあった人である。癩癩を起さず、狂気に陥らない。それが昭和天皇の博物学だったのであろう。

熊楠も昭和天皇も、世間に半分だけ足を置く。残りの半分は多分自然の世界に置いてある。それが狂気に陥らない秘訣であると著書にあった。

世間は意識の世界、つまり心で、身体は無意識の世界、自然だからである。

それは同時に、両者のつり合いが人間の幸福だと勝手に思っているとも言っています。

これを引用したのは、私自身考えて来たことと全く同感と云うほかなかったからです。

少し長くなりました。本日の挨拶と致します。



茶道同好会



幹事報告

菅原 茂秋 幹事

●6月3日の第1例会に、パレスグランドの武田常務にご出席いただくことになっております。会場はグランドホテルになっておりますので、お間違えのないようよろしくお願いいたします。

●6月10日の例会は休会になっております。

●6月17日映画鑑賞例会は、本日皆さまのテーブルに配付させていただいております「長いお別れ」。直木賞作家の中島京子さん原作で内容は、記憶が消えていく7年間を描いたものです。よろしければ佐一郎さんのお弁当も用意しておりますので、奮ってご参加をいただければと思っております。

最終例会は、パレスグランドで盛大にやる予定です。後ほど詳しいご説明もあろうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

委員会報告

次年度幹事

海和 浩運 副幹事

●6月3日、例会終了後に今年度の理事会、その後続きまして、次年度の理事会も開催させていただきたいと思っております。関係者の方はご参加のほどをよろしくお願いいたします。この件につきましては、別途またご案内させていただきます。

●6月13日、グランドホテルで午後6時半より、合同委員会を開催させていただきます。出欠は来週月曜日になっておりますので、お忘れなきようよろしくお願いいたします。

●金沢西ロータリークラブの周年ということで、大変時間も早く恐縮ですが、一応締め切りのほうが先週終わっておりますけども、まだ受け付けておりますので、ご参加できる方はご連絡のほうだけ事務局のほうにお願いいたします。

ゲスト卓話

「山形成長戦略推進室の活動のご紹介」

—山形県における産学官連携と地方創生について—

株式会社山形銀行
リスク統括部長

長谷川 泉 氏



改めまして、山形銀行リスク統括部長の長谷川泉と申します。初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。1977年生まれ。現在41歳です。7歳と2歳の息子がおります。現山形銀行頭取の父が住友銀行に勤めていたために、私が小学2年生の夏まで東京都練馬区で育ちました。1985年、両親の故郷である山形に移住し、その後、山形東高を卒業、東京大学に進学しました。

大学卒業後はドイツ銀行グループのドイツ証券会社やモルガンスタンレー証券、英国のロイヤルバンク・オブ・スコットランド銀行など外国銀行、外国証券会社に勤める機会を得ました。長く勤めた専門は資金調達分野における投資銀行業務、クレジット分析、審査、リスク管理業務です。

2017年9月に山形銀行に入行し、総合企画部付部長を務め、今年4月よりリスク統括部長に就任いたしました。これは新設部署ですので、初代リスク統括部長でございます。

本日は、山形銀行に所属する山形成長戦略推進室が支援を行ってきまして地方創生活動につきましてダイジェスト版としてご紹介したいと思います。これまでも銀行IRなどで一部、ご紹介してまいりましたが、まとめて説明する機会は限られていたかと思ひ、この場をお借りしたいと思います。なお、本日の資料につきましては、4月3日に山形銀行頭取の長谷川吉茂が内閣府から依頼を受け、永田町の内閣府地方創生推進事務局職員向け勉強会にて発表した資料から一部抜粋の上、作成しております。

山形銀行は今年で創立123周年を迎えました。昨年、2018年4月より3カ年の第19次長期経営計画「《やまぎん》未来をつくる ~Vision for 2020~」を開始し、山形県という地域と地方銀行である当行を取り巻くさまざまな構造課題に向かう出発点といたしました。

もとは10年前、2008年9月にリーマンショックが発生し、平成20年度の当行は63年ぶりに当期純利益マイナス59億円という赤字決算を計上しました。その反省をもとに2009年4月に第16次長期経営計画を作成し、それを「やまぎんイノベーション・プラン」と名付け、山形の発展に責任を持つ銀行として成長戦略がスタートしました。さらに2012年4月からの第17次長期経営計画は「やまぎんイノベーション・プラン2」と名付け、いよいよ総合企画部内に山形成長戦略推進チームを組成しました。地域のために働き、地域のために生きる。つまり、地方銀行として地方経済の本格的な成長に資するには、5年、10年という中長期的な視点で取り組む必要があると考えたのです。そして、2015年4月からの第18次長期経営計画「やまぎんイノベーション・プラン3」を経て、現在の第19次長期経営計画「《やまぎん》未来をつくる ~Vision for 2020~」の展開へと至っております。

山形県の現状と見通しの資料です。まず、山形県の人口です。国勢調査をベースとしまして総人口のピークは1950年で136万人おりましたが、その後減少し、再び増加に転じ、1985年の126万人を再びのピークとして、2010年の116万人に至るまで減少傾向が続いております。なお、日本の総人口は同2010年にピークを迎え、1億2806万人となりました。山形県はその0.9%であり、総人口の1%以下となっております。また、山形県は総人口のピークが1985年でありましたから、山形県は日本全体よりも25年早く人口減少社会に入ったことが分かります。

次に生産年齢人口、15歳～64歳までの人口についても見てみたいと思ひます。山形県の実年齢人口のピークは1980年の84万人であります。それから30年後、2010年が70万人ですので、14万人減少し、生産年齢人口比率も60%弱と50%に近づきつつあります。それだけ、高齢化社会が進行していることとなります。なお、日本全体では生産年齢人口のピークが1995年ですので、山形県は日本全体より15年早く高齢化社会に突入したと言えます。以上により山形県は日本全体よりも25年と15年の中間値で20年早く、少子高齢化社会を経験してきたと考えられます。

山形県の名目総生産は2007年がピークで約4兆1000億円でありました。それが5年後の2012年には3兆6000億円へと約4800億円、12%も減少しております。ここで2005年から

2010年にかけての就業人口を見ますと、61万人から57万人へと4万人、7%減少しております。すなわち、名目総生産の減少率12%は就業人口の減少率7%を上回りますので、その差だけ労働生産性も低下していることとなります。労働人口が減少し、また、労働生産性も低下しているため、経済規模は年々縮小するという構図です。このような中、産出物の付加価値の向上を図り、企業価値の向上につなげていくことは、地域経済にとって最大のテーマとなります。

2012年7月、当行は10年後の地域経済のため、当行自らが産業の主体となり、新たなビジネスを創造するという意思を持って、「山形成長戦略プロジェクト」をスタートさせました。先述の通り、この地域創生の意思は危機感から生じております。しかしながら一方で、山形県には大いに誇るべき活動があり、山形県経済に対する大きな期待からの活動でもあります。皆さまにおきましては、良くご承知のことと思いきり縮んでございますけれども、改めて一例のご紹介です。

2015年、天童木工は第6回ものづくり日本大賞で内閣総理大臣賞を受賞されました。東北では初のことでした。2016年、山形県天童市で技能オリンピックが開催されましたが、山形県は愛知県、茨城県に次いで団体で第3位になりました。愛知はトヨタ、茨城は日立、山形県にはそうした大企業がないわけですから、中小企業の手で勝ち取った第3位となります。2008年と2016年、インターナショナルワインチャレンジの日本酒部門で「出羽桜」は2度も世界チャンピオンになりました。山形県の酒造メーカーが得た金賞、銀賞、銅賞の数は兵庫県灘に次いで第2位であります。

中小企業庁、元気なものづくり中小企業300社では、2006年から2010年の4年間で山形県企業は25社、経済産業省、ものづくり日本大賞では2005年から2013年、山形県企業が14社あり、これは東北地方10万人当たりの件数で最多の受賞数であります。

こちらは日本経済新聞に掲載されました山形成長戦略推進室の行員を紹介した資料でございまして、地方創生に特化し、銀行業務をしなくていい行員として紹介されています。

インキュベーションという言葉があり、産業を生む、育てるという意味で使います。当初、山形成長戦略プロジェクトを具体的に進めるにあたっては、経済波及効果の大きさに注目し、インキュベーションパークの構築とヘルスツーリズムシティの構築に優先的に取り組むこととしました。また、ここで当行成長戦略推進室の役割は「地域のメインプレイヤーと連携すること。そして自ら動くこと」と位置付けました。インキュベーションパークは鶴岡モデルと米沢飯豊モデルにて展開しています。ヘルスツーリズムについては上山市をモデル地区としています。これらについて説明していきます。

鶴岡モデルのインキュベーションは慶應義塾大学先端生命科学研究所を誘致し、バイオサイエンスパークという形で展開しています。皆さんよくご存じのことと思います。庄内14市町村と山形県が研究所を誘致し、慶應先端研の研究活動を補助金で支援してきました。国、県、市といった自治体からの補助金と、当行の山形成長戦略プロジェクトがうまく一致した事例であります。

地方創生においては、初期段階での官からの補助金の役割は非常に大きいものがあります。鶴岡の新たな町づくり支援であります。当行の役割は企業誘致とベンチャー創業支援により、バイオ産業の集積を目指すことです。鶴岡バイオサイエンスパークでの代表的な企業支援としましては、先端研第1号ベンチャーであるヒューマン・メタボローム・テクノロジー株式会社に対し、地方銀行で唯一融資対応をしたほか、事業化促進を目的に、当社のマザーズ上場前と上場後に出資を行っております。

また、Spiber株式会社に対し、2013年と2014年にやまがた地域成長ファンドを通して出資を行っているほか、今年3月にはタイプラント建設資金として、三菱UFJ銀行のシンジケート・ローンにコ・アレンジャーとして参加、地域金融団を組成し、融資対応をしています。

ヤマガタデザイン株式会社の町づくりには、三井不動産に勤めていた山中大介氏(同社代表)は、水田に囲まれたホテルという山形の自然を最大限に生かすコンセプトのもと、昨年9月にSHONAI HOTEL SUIDEN TERRASSEをオープンし、また、子どもの遊び場、KIDS DOME SORAIを併設しました。私も10連休中の4月29日から4月30日の間に宿泊させていただいております。

山中代表は、恩恵を受けるのは地域の住民や企業であるとの考えに行き着き、その中で山形銀行にも出資依頼あり、当行が主導し山形創生ファンドを立ち上げることとなりました。当行は山形創生ファンドによる出資と並行し、他行と共に協調融資も展開、事業に必要な資金調達となりました。鶴岡バイオサイエンスパークは既に約500人の雇用を創出し、年間3000人の訪問者を実現しております。

当行では鶴岡サイエンスパークにおける経済波及効果について推計も行っております。推計による経済波及効果は、年間30億7千7百万円です。鶴岡サイエンスパークは全国的に注目されるクラスターに成長しつつあり、新たな人の流れを創出し、町づくりへと発展しました。

次のインキュベーションパークの構築は米沢・飯豊モデルです。山形大学工学部では、産業技術総合研究所や国内大手メーカーを中心とする47社以上の企業と次世代リチウムイオン電池の実用化を目指した共同研究開発が進展しています。当行では、2013年6月より山形大学蓄電デバイス部門に成長戦略推進室の行員を1名派遣しています。内部者として蓄電部門のコーディネートを展開しています。また、飯豊町におきましては、自然文化と最先端科学技術が融合する町づくりを展望しておりました。そして2013年に、当行、山形大学と共に蓄電関連産業の集積地を目指す飯豊電池バレー構想を立ち上げました。2016年1月、同町にリチウムイオン電池開発研究拠点、山形大学×EV飯豊研究センターを設立しております。続く2016年7月、山形大学発のベンチャー企業、株式会社飯豊電池研究所を立ち上げ、代表者には当行現役行員が就任しました。行員がベンチャー企業の代表者に就任するのは、当行にとって初めての事例であり、雇用、GDP創出に貢献すべく、実践的事案として取り組みを展開しております。

また、東北地方随一のワイン産業集積地である上山市、

南陽市からワインや地域資源の魅力を発信するため、東北初のワインツーリズムやまがた2018を開催主導しました。当行、観光協会が山梨県のワインツーリズムやまなしと連携して企画し、そこに上山市、南陽市と地元温泉組合も巻き込み、ツーリズムを実施したものです。参加人数は350名でしたが、県外参加者は7割、宿泊も約7割おり、実施効果が高い企画であります。

引き続き上山モデルです。健康寿命の延伸を具現化するヘルスケアビジネス創出に向け、上山市をモデル地区とするヘルスツーリズムシティ構想を展開しています。地域資源である温泉のほか、蔵王連峰に囲まれた豊かな自然という財産を活用した取り組みとして、2008年よりクアオルト、健康保養地事業を開始しました。日本、アジアで唯一ドイツのミュンヘン大学認定のクアオルト構想を整備するなど、上山市の地域全体が健康保養地として取り組んでいます。事業のさらなる加速化を図るべく、2013年より上山市役所に当行行員を派遣しております。上山市におけるクアオルト事業は、厚労省、経産省、環境省等にて事例発表を行っているほか、全国各地から年間30から40件の視察がございます。

先に紹介した上山ワインツーリズムですが、今年は6月9日にワインツーリズムやまがた2019を開催します。また、前日6月8日にはおなじみやまがたワインバル2019inかみのやま温泉を開催し、4000人の来場を見込んでいます。上山市観光物産協会の主催でございます。ふるってご参加ください。

当行の最大の強みは、今まで山形成長戦略プロジェクトで築き上げたノウハウや、学術機関・自治体との連携により地域のコアな製品、技術、サービス、情報を収集できることです。山形県の中小企業はものづくりを得意としておりますが、マーケティング機能も強化しなければなりません。今後の展開としましては、当行がそうした支援を行い、地域に利益をもたらす活動も考えているところです。

最後に私事ではありますが、2017年に山形銀行に入行する以前におきましては、外国銀行、外国証券会社にて、グローバルの金融市場を相手に日々タイギリス、アメリカなどの欧米や香港、シンガポールなどのアジアにおける日系企業の国内・海外案件に向かい、まさに昼夜問わず仕事に向かう日々を過ごしてまいりました。案件規模も非常に大きく、緊張を強いられながらもエキサイティングな日常を送っていたと思います。一方で、直近に所属していた英国銀行では、アジアでの証券会社業務に特化する方針を採り、そのため銀行業務は撤退するという大規模な事業再編を経験し、同じ空間で働く多くのメンバーが退職していくという経験もありました。その過程は本当につらいものであり、でき得る限りこうした経験を避けなければいけないこと、そのために遅すぎずに必要な時期に予防

的に必要な対処を行っていくことがどの企業にも大事であると常々考えております。

山形銀行での私の現在の役割はリスク統括部長であり、通常は銀行の経営体力の強化や経営管理機能の強化など、内部体制管理のために知恵と体力を絞っております。当行は地域とともに成長・発展をしていく企業です。金融環境は厳しく、数々の課題の解決に日々奔走しておりますが、当行自身が十分に体力を備えて山形の地方創生の強い担い手にならないと考えています。

県内GDPの減少を典型に、山形県の経済成長は数字として強くはありませんが、1つ1つプラスの面があること、そしてそれに向けた支援が役に立つことを信念とし、地元地域における事業の発展に向け、十分な支援をできるだけの力をこれからも備えていきたいと思っております。

これからの展開におきましては、手探りの面も多いですが、恐れず試行錯誤こそが成功への鍵になる時代と思っております。われわれとしても、真に新しい時代へ向かう挑戦者の気持ちで進めてまいります。どうぞ意見ご指導のほど、頂戴できましたら大変嬉しく存じます。私としましては当行の内や外にたくさんの熱意を見つけ、それを支援していく組織、チームづくりを行っていきたくと思っております。以上、本日は長きに渡りご清聴ありがとうございました。

ニコニコBOX

鈴木浩司さん／本日の卓話に長谷川泉さんをお迎えしてお話をお聞きできますことを楽しみにしています。

中山眞一さん／本日の講師卓話は、私が社外取締役になっている山形銀行の長谷川泉さんです。泉さんを歓迎しニコニコします。

高橋勝治さん／先日、第十小学校の運動会で6年生の孫が開会の挨拶をしました。その下の2年生の孫がリレーの選手に選ばれ、おかげで朝8時からリレーの最後の3時まで応援してきました。大変嬉しくニコニコします。

市村清勝さん／昨日磐梯山の山開き、宝の山の山頂で三角点にニコニコしながらタッチできました。素晴らしい天気にも恵まれ、桧原湖、猪苗代湖を一望できました。次はどこの三角点にタッチしようかなあ…。

武田秀和さん／高校の同級となる長谷川様のお話を拝聴する機会を頂き、うれしく思います。高校卒業以来にお会いし、昔を思い出しました。

<本日出席・修正出席>

| | 会員総数 | 出席会員数 | | 会員総数 | 出席義務会員数 | 出席会員数 | 出席率 |
|-------------|---|-------|-------------|------|---------|-------|--------|
| 本日出席 (5/27) | 97名 | 54名 | 修正出席 (5/11) | 97名 | 85名 | 81名 | 95.29% |
| メイクアップされた会員 | (山形南) 長谷川浩二、佐藤 英一、石井 雅浩、大城 誠司 (山形) 長岡 壽一、戸田 佳瑞、鈴木 謙司、遠藤 正明 (山形北) 鈴木 隆一、伊藤 歩、長澤 裕二、大城 誠司 | | | | | | |